令和８年９月２４日
株式会社シーエス・ワンテン
日本アムドックス株式会社

番組審議会議事録

・日時　　令和８年９月２４日（木）１５時００分～
・場所　　日本アムドックス株式会社　神谷町オフィス　会議室
・委員　　審議委員総数　８名
　　出席審議委員数　８名

（出席委員）
委員長　　片岡　朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所　弁護士）

議長　　江口　靖二（合同会社江口靖二事務所　代表社員／
　　一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム　常務理事）
　　石井　玄　（株式会社玄石　代表取締役）
　　小栁　大輔（株式会社Ｉｎｔｅｒｖｉｅｗ　代表取締役）
　　関谷　信浩（東放学園専門学校・東放学園映画専門学校　学校長）
　　野村　達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟　理事長）
　　芳賀　康浩（青山学院大学　経営学部　マーケティング科　教授）
　　山本　伸夫（株式会社日経ＢＰ　日経エンタテインメント！編集　編集長）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）
　　船越　昇　（代表取締役社長）
　　川北　桃子（編成局長）

（番組供給事業者：日本アムドックス株式会社）
　　河内　英理也（営業部門　部長）
　　関戸　美帆（チャンネルオペレーション部門　部門長）
　　戸田　裕介（チャンネルオペレーション部門　ＴＡＭディレクター）

・審議番組　　「Ｎａｇｉ　Ｉｎｏｕｅ（Ｎｏｇｉｚａｋａ４６）　ｍｅｅｔｓ
ＶＯＣＡＬＯＩＤ ＭＵＳＩＣ －ＳＰＥＣＩＡＬ Ｌｉｖｅ ＆ Ｄｏｃｕｍｅｎｔ－」
・放送日時　　令和８年４月２９日（水）１９時００分～２０時００分
・番組内容
幼少期からボカロ文化に親しみ、２０２５年の音楽アワード「ＭＴＶ ＶＭＡＪ」でボカロ楽曲の特別賞作品「リレイアウター」を歌唱した乃木坂４６の井上和が、一人のアーティストとして改めて「ボカロ楽曲」と対峙する特別番組。本人選曲による全く異なる質感の２曲（「命ばっかり」「Ｍｅｌｔｙ Ｍａｇｉｃ」）が、井上和というフィルターを通したときにどのような化学反応を起こすのか。番組では、スタジオライブに加えて、収録までのメイキングやインタビューを交えた内容で、グループ活動では見ることのできない彼女のボーカリストとしての真骨頂が体感できるような番組の制作・編成を心掛けた。。

・委員からの意見とＭＴＶの回答
〇編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
〇非常に素晴らしい番組であった。井上和さんのボーカリストとしての魅力を知ることができた。
〇ボカロを通して井上和さんの魅力を伝えることができている、すごく優れた番組であった。
〇ライブ収録に至るまでのドキュメント部分が非常に見応えがあった。制作の裏側を見ることができるのはファンにとっても嬉しい内容だったのではないかと思う。
〇ドキュメントとインタビューを前半にまとめて最後にライブという過程を、時間軸に沿ってしっかりと見せていく構成が良かった。視聴者にとっても一番刺さる構成ではないかと思った。
〇ドキュメントからライブに行くまでの番組尺が絶妙であった。短すぎると見応えがなく、これ以上長いと飽きてしまうように感じ、素晴らしい構成だと思う。
〇番組のタイトル通り、ドキュメントからライブに行くまでのグラデーションがしっかりしていると感じた。私服でのレッスンから衣装・メイクをした本番に向かうまでの流れであったり、１時間の番組でストーリーが伝わり、非常に優れた編集・演出であった。
〇制作サイドが井上和さん自身にしっかりと向き合っていることが伝わってきた。その結果、アイドルとしてのアイデンティティや、ボーカリストとしての思いを深く知ることができ、２曲のパフォーマンスにより価値を与えていたと思う。
〇井上和さんを詳しく知らないという方にとっても、彼女の魅力がしっかりと伝わる内容だと感じた。
〇選曲意図をしっかり語っていたことが良かった。それによって、パフォーマンスの説得力がより生まれていたと思う。
〇インタビューの内容が非常に濃いものだった。ご自身にとってボカロがいかに大切なものであるか、そして常にファンの方を考えながら活動されていることも、しっかりと伝わってきた。
〇思いを乗せて歌いましたというコメントが非常に印象的だった。実際にパフォーマンスを見た時に、ボカロという人工的な音声を生身の人間が歌唱することで生まれる、高揚感を得た気がした。
〇スタジオライブの映像はシンプルながらも２曲の異なる世界観がしっかりと表現されていたと思う。
〇ドキュメント部分で周辺にボカシを入れることで本人が際立って見えることがあり、こういった演出の手法もあるのかと興味深く見ることができた。

○限られた密着期間だったと思うので、ドキュメントとしての抑揚をつけるのは難しいかなと思ったが、飽きずに見ることができ、非常にクオリティの高い番組であった。
○例えば仕事の合間で練習している風景とか、もう少し密着できている映像があると、より番組の厚みを増すことはできたかなと思う。
○ボイトレ・振付の先生より、どのように楽曲に向き合ったかというようなコメントがあると、さらに番組に立体感が生まれたかなと思う。
○ドキュメント部分の撮影に関して、例えば本人のメモの映り込みなど、カメラ位置を変えることで撮影できた映像もあったかと思い、少し気になってしまう点があった。
○多方面で活躍されている井上和さんを以前より起用している、ＭＴＶの先見性やブッキング力を感じた。
○「ＭＴＶ　ＶＭＡＪ」でのパフォーマンスがあった上で、今回の番組に繋がっている流れが、非常に考えられた編成であると思った。
○ボカロとアイドルという組み合わせが、それぞれのファンが他ジャンルの音楽に触れるきっかけ作りにもなり、非常に優れた番組企画であった。
○長年にわたってＭＴＶが培ってきたアーティストとの向き合い方が今回の番組においても肝だと感じ、番組企画としては一つの完成形でもあるような、非常に感銘を受けた番組であった。
○「ＭＴＶ　Ｕｎｐｌｕｇｇｅｄ」のような、時間をかけて本物を追求する番組の歴史があるＭＴＶだからこそ、制作することができた番組だったのではないかと思う。これからもアーティストと向き合って物語を見出していく番組を期待したい。
○正攻法でとても誠実に制作されていることが、この番組の面白さと、一周回った新しさ・強さに繋がっているのではないかと思った。インスタントに音楽が消費されていく時代において、このような番組制作は、王道でありながらも新しく、再現性の高い手法ではないかと思う。
○井上和さんのように幼少期よりボカロ文化に親しんできたアーティストはこれからも増えてくると思うので、ボカロを軸にすることは、番組を制作するにあたっても非常に有効な手法ではないかと思う。
○今までもグループに所属しているメンバーを音楽的にフィーチャーする番組をＭＴＶは制作しているが、どれも非常にクオリティの高い内容であったので、今後もこういった企画は継続して頂きたいと思う。
○別番組として、ボカロシーン全体を掘り下げたり、クリエイターにフォーカスしたものがあると、今回の番組もより深く見ることができるような気がした。
○非常に優れた番組だったので、今後のシリーズ化も期待したい。
○放送後にＹｏｕＴｕｂｅで公開したことは、より多くの方に届くような施策で、すごく良い取り組みだと思う。
○ＹｏｕＴｕｂｅで公開する際は、テロップを載せた映像にした方がいいと思った。テレビの視聴者と異なり、より分かりやすくしてあげた方が効果的だと思う。

（ＭＴＶ側）

・グループ活動では見ることのできない、井上和さんの新たな一面が伝わるような番組制作を心掛けていたので、そういった点を感じて頂けたというご意見は非常に嬉しく思う。今後もこのように、グループに所属しているメンバーを音楽的にフィーチャーしていく番組企画は考えていきたい。

・こだわった点の一つとして、コーラスなども全て本人が事前にレコーディングして、オリジナルのトラックを用意して収録に臨んでいる。このように丁寧な準備をした番組制作をこれからも心掛けていきたいと思っている。

・ドキュメント番組を制作するにあたり、どこまで密着して十分な映像素材を確保できるかは、毎回の課題であると同時に、より裏側の映像を撮れるような制作体制、及びアーティストとの信頼関係を築いていきたいと考えている。

・今後、ＹｏｕＴｕｂｅで公開するコンテンツには、テロップを載せるようにしていきたいと思っている。

・審議機関の答申、又は改善意見に対してとった措置、その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和８年９月２４日以降、
編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、
更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申、又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和８年９月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、
また、ＭＴＶでの放送内でも公表する予定。